

人生ピンチヒッター友の会

ニュースレター 創刊号 2017. 10 . 1

『人生ピンチヒッター 友の会』ニュースレター 巻頭言 顧問：樋野興夫

この度、7人の「速効性と英断」によって『人生ピンチヒッター 友の会』が設立され、ニュースレターが、定期発行されることになった。歴史的快挙である。大いに感動した。筆者は、顧問とのことである。

『人生ピンチヒッター』の理念は、

1) 「誰にも悪意を抱かず、すべての人に慈愛の心」(リンカーン)をもって、2) 「チャンスを提供」することであろう。

『人生ピンチヒッター』の3ヶ条は、

1. 『人に接する呼吸を得ている者』 2. 『性格の悪くない者』 3. 『無規則で始める勇氣と胆力を有する者』であろう。

これは、新渡戸稲造が、国際連盟事務次長の時、「国際連盟事務総長：ドラモンド」から、学んだことでもある。

「カラヤンに学ぶ人生ピンチヒッター」 会長 三国浩晃

私たちは月1回、樋野興夫先生を囲んで、読書会(新渡戸稲造の武士道等)をしています。2ヶ月続けて先生の出張が入ってしまい、「お休みにしましょう」と話していると、先生から「まさにこの時のために・・・」のお言葉で『人生ピンチヒッター友の会』が設立されました。

カラヤンは46歳の時、急逝したフルトヴェングラーの代役を果たし、その成功を機に翌年からベルリン・フィルの指揮者を務めたのです。

私は頼まれごとに「参ったなあ」と逃げていましたが、これからは「もしかしたらこの時のために・・・」を旨に進もうと思います。余談ですが、「カラヤンって知ってる？」と母に尋ねると「覚えていないの？よく家でレコード聞いていたのよ。当時あなたはダダダダーンと走り回っていたわよ」と。

今は認知症の父が大きなスピーカーでレコードを聞いていた当時の映像が目の前に浮かび胸が熱くなりました。

「夫婦愛」 渉外担当 角田則明

いつも何気なく一緒に生活を共にしていると、当然の様に成される事が当たり前だと勘違いしている事さえ気付かない事が多く、感謝の気持ちを忘れてしまっている。今まで以上、これからも共に歩んで行くには、小さな事にも感謝の念を忘れず、言葉や行動に現して相手に伝えなければと感じた。

お互い出来る事は限られているので、相手が出来ない事には手を差し伸べ、声を掛け、サポートしながらコミュニケーションを密に出来ればと考えております。又、自身の思っている事が、話さなくても分かるだろうとは思わず、分かっているとは思いますが、その一言を話せば相手は一層理解してくれると思いい、お互いの意志疎通が深まるだろう。

ちょっとした事に気を配ったり、相手の事を思いながら日々一日を過ごしていけば、色々な事に対しても共に、立ち向かっていけると思う。

これからも、相手の気持ちを慮り、新たな気持ちで日々邁進して行きたいと思う次第です。手と手を取って、目指すは『チャーミーグリーン』

「エステル of 現代的意義」 会長補佐 大弥佳寿子

「人生は、もしかしたらこの時のため」という言葉が気になり、聖書中の「エステル記」をさりげなく読んだ。人生には、自分の望まない不条理なことがあり、病気(がん)もそうであろう。「なぜ、自分がこんな目に」と嘆いたが、「なぜ(Why)」を問うても答えは見つからず、「いかに(How)」に生きるしかないと思った。乳がんと共存し、がん哲学に出逢い、カフェを始めて「今」がある。「もしかしたら、この時のため」だったのかとさえ思う。病気にはなりたくなかったが、病気になり与えられた役割・使命もある。

「人生から期待されている」 広報担当 森尚子

今にして思うと人生に期待していた。そんな自分は、病をきっかけに抑うつ状態になった。人と比べて落ち込み、不条理に泣き、自分で自分を苦しめた。「がん哲学外来」に出会い自分は人生から期待されていると思えるようになった。どんな小さな事でも、役割・使命を持つと生き方が変わる。すべての出来事が感謝に変わる。

「社会貢献」 会計担当 三箇明日香

言うが易くするが難きことのひとつに、社会貢献もあると思います。それは次世代でも、企業、団体、グループ、個人、どの立場でも同じでしょう。貢献を受ける場合、継続は年々力の源となり自活の道も花開くのではないのでしょうか。世の中には、見方と立場を変えると支離滅裂なことが多いように感じます。ここはシンプルに。続けられるようには始める、はじめたら続ける、を大切にしたいと思います。するが難きですから。

編集者：『人生ピンチヒッター友の会』岩崎秀子 pchan3954@bf7.so-net.ne.jp

一般社団法人がん哲学外来ホームページ

<http://www.gantetsugaku.org>